

## 六五会 暫くぶりのウォーキング

小山田秀士（7組）



コロナの蔓延する前、毎月21日の六五会定例会の前にウォーキングをしていたことがありましたが、暫く途絶えていました。船頭は小山田ということで、ようやくその気と時間ができたので、5月21日（日）、暫くぶりに再開しました。

今回は私の住んでいる東内の辰ノ口から三才山峠に向かい歩きました。丸子公園の駐車場に集合して、まず依田川沿いに歩き、丸子総合体育館の前の大きな岩に到着。この大岩は御嶽堂村、東内村、上丸子村三村の堺石であること、古老はこの岩から依田川に飛び込んだなどといつか聞いた話をしながら内村川を渡りました。橋はボーストリング・トラス橋といい、明治の初めにドイツで製造され、九州で使用されて昭和の初め上田丸子電鉄の鉄橋として千曲川の大屋に来ました。平成13年に水害で被災し、1連を保管しておいたのを平成19年に「りんどう橋」として3度目のご奉公となったのです。ピンとボルトで構成された特色ある構造で美しく、また国内に3連しかないことから、土木学会の「近代化遺産2000」に選定されています。

人気の直売所の「あさつゆ」を見ながら段丘上の白鬚神社にお参りました。かつてこの境内には舞台があって、村芝居を地元の青年が春に秋に演じたことを説明しました。ひいおじいさんは女形で人気があったと親父から聞いたことを思い出しました。

辰ノ口集落の入り口の道祖神を横目に見ながら、かつての集落の入り口の「鍵の手」を曲がり集落の入り口、下町に入りました。近くの小字に「下木戸」「関下」などがあり、三才山峠、小屋坂峠からの人、物を監視し管理していたのでしょうか。宿場造りで間口は6間、7間が多く、奥まで細長くウナギの寝床です。海野宿のように街道の真ん中に水路が流れていましたが今は寄せられ暗渠となっています。

青木家の裏の「辰ノ口高塚古墳」に回り見学しました。上田小県では大きくまた保存状態も良いとのこと。私は小さい時よくこの古墳に入って遊んだものです。今は安全上から入れません。

下町と中町の間に「問屋」がありました。今は面影がありませんが運送の中継場所でした。寛保年間の「戌の満水」時の大雨で三才山峠が通行できなくなるまでかなりの物流があったとのこと。江戸の屋根材に使う木曾の「樽木」が多かったという話を聞いたことがあります。そんな話をしながら次の集落「横辻」に向かいました。近くに「竹ノ花」などの小字が有り、築地、館の端などがなまったものとも思われ、小屋坂峠、三才山の街道に関わるものと思われ。

内村川の堤防に出て公園に向かい戻り始めました。依田川から取水して塩田に送る用

水の一尾根くり貫いたトンネルから流れ落ちる水量の多さに感嘆しながら「道金坂橋」を渡りました。右は全芳院への峠道、左へ折れて丸子城の裾を回りながら公園に向かいました。第一次上田合戦では上田城を攻めあぐねた徳川軍が丸子城を攻撃しました。この丸子おもての戦いは激戦で、多くの死傷者が出たようです。辰ノ口のある家の墓石にはこのときに戦死したと刻みがあるとか、家康の感状が何通もあると聞いたことがあります。途中の高台に館跡と推定される場所があること、また途中途中には空堀などが観察できました。

終点の丸子公園下の内村川沿いに、シナノケンシの東内工場が見えてきました。かつてここは依田社の製糸工場のひとつでした。そのあと浦和の浜野の染料工場が昭和の終わりまで繰業していましたが、今はシナノケンシの精密モーターの工場となり、生糸と同じように世界に輸出されています。

その後、我が家の裏でお茶休憩をして霊泉寺温泉に向かいました。子供のころ以来と言う君もいて、加温加水もして無い 100 パーセント源泉の泉質の良さに感激してウォーキングの疲れもとれ大満足でした。次回は 21 日にこだわらず、ウォーキングのあと温泉と食事もいいかな、など話して解散しました。

参加者は 4 人、布施修一郎 (6 組)、小山寿一 (2)、若林健 (9) と私の 4 人でした。

(2023 年 5 月 30 日)

以上